

日本労働年鑑 第55集 1985年版
The Labour Year Book of Japan 1985

第二部 労働運動

VII 社会保障闘争

3 医療保障闘争

沢内村と心をむすぶいのちの行進

全国に先がけて老人無料診療を実施し、村ぐるみで健康な村づくりをおこない、老人保健法による老人医療有料化後も六〇歳以上の無料診療をつづけている沢内村の偉業をたたえようと、全国老地連の呼びかけで、八三年四月二八日「沢内村に老人無料診療の記念碑をつくる会」が結成された。同会は、沢内村の絵はがき等を頒布しながら記念碑の基金を集めるカンパ活動に取り組み、沢内村に老人医療無料発祥の記念碑「命の灯」が建設された。一二月一日、村民のほか全国から約五〇人の参加で、除幕式がおこなわれた。八三年九月二五日から一〇月二日には、全国老地連と「記念碑をつくる会」の主催でキャラバン行進「子どもを守れ、おとしよりを守れ、沢内村と心をむすぶいのちの行進」が取り組まれた。出発に先立ち二四日、全国から約六〇人の参加で、現地交流会——沢内病院見学、同村の記録映画上映等——おこなわれた。「子どもを守れ、おとしよりを守れ、沢内村と心をむすぶいのちの行進」は、二五日沢内村を出発、盛岡、仙台、山形、福島、宇都宮、前橋、浦和のコースで東京へ向かい、各地で「生命尊重、健康づくり」を訴えて、地方自治体への要請行動、講演会、地域団体との懇談会をおこなった。

国民の医療とくらを考えるつどい

老人保健法施行後一年目の八四年二月一日、東京・教育会館で、「老人保健法一年後の実態を明らかにし、国民の医療とくらしを考えるつどい」が約一五〇人の参加で開催された。集会は、都社保協、日社労組、保団連、民医連、生協連医療部会、老地連、東京地評退職者の会、くら福運営委員会など一〇団体で構成される老人の医療を守る二・一実行委員会が主催した。基調報告「ここまで来た老人差別政策——保健法の実態と問題点」井上英夫（茨城大）、「老人の医療について——切りすての老人医療行政」中川晶輝（特養老人ホーム園長）の後、各団体からの実態報告、取り組みの報告、討論がおこなわれた。

国民医療・医療労働研究会の「緊急提言」

国民医療・医療労働研究会（代表沼田稲次郎）は、国民医療と医療労働の実態を調査研究し、保険医療に関する諸課題を究明するとともに、国民生活充実の観点にたつて、政府および地方自治体にたいして適時に適切具体的な提言をおこなうことを目的として、八二年三月に発足したが、八三年一月一六日「国民の期待に応える看護体制確立のための緊急提言」を発表した。「提言」には、国民医療における看護力の強化と看護体制の確立、とりわけ看護労働の量的質的向上のために必要不可欠と考えられる諸方策が盛り込まれている。

■←前のページ 日本労働年鑑 1985年版(第55集)【目次】次のページ→■
日本労働年鑑【総合案内】

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)
